

口と命と絆の会からの メッセージ

さあはじめよう！お口の健康！ ～お口を知ろう！これが日本人の活力源だ！～

口は、命の入り口であると同時に、病気の入口でもあります。口と鼻を清潔に保つことが、健康な体作りへの第一歩です。動物は歯を失ったら死んでしまいます。しかし人間はいろんな健康サポートを受けることで生きながらえることができます。成人で身体にいいことをしている人たちはどの位いるでしょうか？その中に歯の病気をもっていながら健康にいいことをしている人たちはどのくらいいるでしょうか？歯の治療を放置して身体の健康の為と称して何かをしている人たちの多さに気付かされます。これは健康の近道を通らず回り道をしているのと同じことです。

学校健診に携わって気づいたことがありました。高校と保育園の健診を行っていた私は今年から一小学校の校医となりました。そこで知ったのは保育園と小学校では全く状況が違うということでした。むし歯なのに治療の形跡がない子どもたちの多い事に驚きました。ほぼ9割の生徒が何らかの専門的アプローチが必要な状態でした。保育園児でむし歯のある子は年齢的に免疫力も高くむし歯以外の歯の質感が良いように感じます。そういう子をみるとまだ間に合うという意識が働き治療勧告の後は気になりませんでした。

小学校に出向いて歯の健診に関わって気づいたのは、幼児期には唾液で潤っていて質感も良かったはずの歯が、歯の表面の直ぐ下がスカスカになることで軽石のような質感に変貌している場合が多いということです。これを要観察歯と言います。しかも生えている歯全てがスカスカになっている子どもも多いのです。硬い食べ物でも食べようものならもろくも壊れてしまいそうな歯の子どもたちが未来永劫自分の歯で健康を保てるとは到底思えません。そういう子たちの口が健康になると目が生き生きしてくるものです。そんな中、治療勧告をしても治療に行かない状況でも子どもたちを健康に導くには保健活動を展開していくことしかないと悟りました。

丈夫で元気に生きるには、子どものうちから口を健康に保つよう関わっていくことです。今回、命の入り口セミナーを通して必要なことがより多くの人々へ広がる事を期待してやみません。

口と命と絆の会

発起人 平野尚史